

●使用している著作物は以下の通りです。

問題 7

次の文の要旨として最も妥当なのはどれか。

ヒトに常在する細菌は偶然の産物ではない。祖母から母、母から娘、娘から孫へと受け継がれてきた。長い進化の過程で、私たちヒトは役に立つ細菌を選択してきた。そうした細菌の喪失は人類にとっても大きな損失となる。

生態系のなかでは今、私たちの知らないところで多くの生物種が消えている。同じことが、私たち人間の身体内でも起きている、ということかもしれない。

一種類あるいは二種類の生物「種」が消えても、通常、生態系に目に見えるような問題が起こることは少ない。しかしある閾値^{いきき}を超えて生物種が消失すると、あるいは中枢種が消滅すると、その影響はしばしば生態系全体に及ぶ。消滅の割合は全生物の二割ともいう。

生物の相互関係が生態系に与える影響が、マクロ（自然）の生態系においてもミクロ（身体内）の生態系においても同じであるとすれば、私たちの身体内でも同じことがいえる。細菌種の喪失は、ミクロの生態系を回復不可能にし、私たちに病気を引き起こす。

それは、自然というマクロの生態系のなかでも、あるいは、人体という小さなミクロの生態系の中でも人は独りでは生きていけない、という単純だが深い真実を教えてくれる。そしてそれはさらに次のような事実を突きつける。一度失われた種や細菌が再び回復することはないということを。

(注) *閾値…物質に変化を起こさせる限界値、臨界値のこと

(山本太郎『人は独りでは生きていけない』)

- 1 長い進化の過程で、ヒトは細菌と共生してきた。細菌の喪失は深い真実を教えている。
- 2 ヒトが生きる上で細菌は必要であり、細菌の喪失は人類にとっても大きな損失である。
- 3 病気は、マクロの生態系の細菌を喪失することによって、引き起こされる現象である。
- 4 細菌は受け継がれてきた。その喪失は、種の喪失になるので回復させなければならない。
- 5 体内の細菌を保存し、研究するためには、病気の人々の協力が必要である。